非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費 3000 円（全国紙代含む）

2018 年 10 月 20 日　月刊第 243 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は 69 か国、批准は 19 か国（10 月 20 日現在）

1 面　被爆ピアノコンサートに４００人　江守道子
3 面　北東アジアの非核地帯実現に向けて　原　和人
核兵器禁止条約の批准は 19 か国に
4 面　原発ゼロ・自然エネルギー推進を ―基本法案に込めた思い―　三上　元
5 面　沖縄県知事選　勝利の余波
6 面　沖縄をこれからも応援していく　村中香子
平和を願うからこそ紙芝居を　安原昭二
7 面　〈独標〉やまびこ　池田珠子
編集室より
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　中山清子
非核・平和の掲示板

国連核兵器廃絶デー・記念イベント
被爆ピアノコンサートに四〇〇人

江守　道子

核戦争を防止する石川医師の会は、九月二四日（月・休）、石川県女性センターにおいて、国連核兵器廃絶デー企画、ＩＣＡＮノーベル平和賞受賞記念、会結成三〇周年記念企画として、「被爆ピアノコンサート」を開催しました。同日午前中には、会員や石川県原爆被災者友の会のメンバー等が近江町市場前に集合し、「白衣の街頭キャンペーン」を実施。街行く人々に、核戦争の悲惨さや「ヒバクシャ国際署名」への協力を訴えました（集約した署名は三〇分で六五筆）。

この企画に先立ち、コンサート前日の九月二三日（日）、江守クリニックにおいて、被爆ピアノの現在の所有

コンサート出演者・スタッフが 勢揃いして記念撮影

被爆ピアノへの思いを語る矢川光則さん

花鳥風月

毎月「被団協」新聞の発送作業をしている。荷を開くと三面に渡って「グテーレス国連事務総長が五月二四日、軍縮アジェンダ『共通の未来のために』をジュネーブ大学で発表」とのタイトルで、講演全文の邦訳が掲載されていた。「軍縮アジェンダ（行動計画）」の英文は国連ＨＰで見られるとのことだが邦訳はまだ出ていない▼予備知識なしに読み進んでその画期的な内容に感動した。グテーレス事務総長は「地球規模の重大な不安要因、武器がもたらす脅威について議論したい」と説き起こし、「他国を顧みず自国だけの安全保障を追及すれば地球規模の不安を呼び起こす矛盾が生ずる」と最近の政治状況を告発する。「①人類を守る②人命を守る③未来世代を守るための軍縮が必要として、第一優先課題に核兵器、化学兵器、生物兵器の大量破壊兵器の削減と廃絶」を挙げる▼読んでみて「核抑止」論とは、軍事的不安を利用して諸国間の軍拡競争を呼び起こすためにこそあるのではないか。巨大軍事産業が世界で一兆四千億ドルもの軍事予算を食い物にしている現実は重いと感じた。アジェンダが提起する「軍縮」の未来に、日本国憲法第九条が輝いて見えた。国連の役割に注目したい。（Ｉ記）

者・矢川光則さんから、被爆ピアノにまつわるお話をお聞きしました。

矢川さんは広島の被爆二世で、ピアノ調律師。被爆ピアノの音色を全国に届けるため、北は北海道の宗谷岬から、南は沖縄の最南端まで、自ら運転する四トントラックで全国を飛び回っていらっしゃいます。最初は、捨てられるピアノを環境保護の観点から修理・調律して福祉団体に寄付する活動されていたそうですが、その活動の中で被爆ピアノに出会い、現在では六台の被爆ピアノを譲り受け、管理されているそうです。

印象に残るコンサートとして、八二人の集団自決で有名な読谷村のチビチリガマ（鍾乳洞）での慰霊コンサート、広島の平和記念公園で毎年開催されるコンサート、二〇一〇年九月にニューヨークで行われた同時多発テロ犠牲者の追悼コンサート、そして二〇一七年一二月、ノルウェー・オスロで開催されたノーベル賞平和コンサート等を挙げられ、いずれも被爆ピアノが奏でる音色が、平和を願う多くの人々にしっかり伝わったことをお聞きしました。

その夜は、わが家で食事やお酒を囲みながら、夜が更けるまで、コンサートの裏話を聞いたり、毎年金沢でコンサートを開いてほしいとの依頼を受けるなど大いに盛り上がりました。

そして迎えた九月二四日午後一時半、いよいよ「被爆ピアノコンサート」が始まりました。矢川さんにお持ちいただいた二台の被爆ピアノのうち、一台はホール前に置かれ、来場された皆さんが触れたり、弾いたりと大活躍でした。始まる頃には、会場は定員を超える四〇〇人もの人々の熱気に包まれました。

◇　◇　◇

冒頭、当会代表世話人の白﨑良明先生の挨拶「核戦争を防止する石川医師の会三〇年の歩み」の後、プログラム第一部「被爆ピアノの音色」へ。七〇年前に被爆し傷跡の残るアップライトピアノの音色は想像以上に素晴らしく、朗読、ピアノ演奏、ソプラノ独唱に感動しました。短い時間でしたが矢川さんにも被爆ピアノをめぐる取り組みについてお話しいただき、被爆ピアノに託した平和への熱い思いを皆で受け止めました。

第二部は「広島・長崎から福島、そして未来へ」。ここでも、歌と演奏から始まり、ハープと朗読、テノール独唱、そして最後に〝不忘歴史　面向未来（歴史を忘れず未来にむかって）〟をベースに活動する金沢紫金草合唱団に「ヒロシマの有る国で」を、心をこめて歌っていただきました。

・・・

ＩＰＰＮＷ北アジア会議・参加報告

北東アジアの非核地帯の実現にむけて

核戦争に反対する医師の会共同代表　原　和人

発言するティルマン・ラフＩＰＰＮＷ共同代表

九月一三日、一四日とモンゴルのウランバートルで第一〇回ＩＰＰＮＷ（核戦争防止国際医師会議）の北アジア会議が開催されました。北アジアは日本、韓国、北朝鮮、中国、モンゴルの五ヵ国で構成されますが、最近は韓国、中国の参加はありません。今回は、南アジアとの第三回目の合同会議としても開催されました。

日本からは、私が共同代表を務める反核医師の会からの一二人を含めて三七人、インド一一人、ネパール五人、北朝鮮二人、オーストラリア一人、オランダ一人の海外から五七人と、モンゴル国内五〇人前後をあわせて約一〇〇人が参加しました。

会議は、五つのシンポジウムを中心に運営され、昨年の核兵器禁止条約の採択と批准に向けた動き、南北会談、米朝会談を受けての北東アジアの平和と非核化、長崎・広島のヒバクシャの健康障害、福島の原発事故による健康障害、モンゴルのウラン鉱山周辺住民の健康障害、オーストラリアの核実験による健康障害などについて論議がされました。

核兵器禁止条約については、二〇一七年七月の核兵器禁止条約の採択、そして、ＩＣＡＮのノーベル平和賞の受賞を受けて、核兵器のない世界が現実になろうという情勢の下で、核兵器禁止条約を発行させ、それを現実化するためには何が必要なのかが論議されました。具体的には、条約をより広めること、各国政府や議員、さらにはＮＧＯなどあらゆるところに働きかけること、さらに核兵器に関連している企業に融資をさせない運動などが提起されました。

今回、昨年のイギリスのヨークで開催されたＩＰＰＮＷの世界大会に引き続き、北朝鮮の代表が二人参加していました。これまでの北朝鮮の発言は、北朝鮮が核兵器を持つことに関して、その弁明に終始していましたが、今回、このことにはほとんど触れず、南北会談、米朝会談を踏まえて、朝鮮半島の平和、非核化の重要性とその努力について強調していました。

その後のシンポジウムでは、この流れを受けて、北東アジアの非核地帯について論じられました。北東アジアの非核地帯については、以前から一つのテーマとなっていましたが、今回、北朝鮮が非核化の方向性を表明し、朝鮮半島の非核化、さらには、北東アジアの非核化がより現実的になってきています。ただ、北東アジアの非核化においては、北朝鮮の核の問題だけではなく、アメリカの核の傘の下にある韓国や日本の核の問題も同時に論議されなければなりません。すでにモンゴルは一国非核地帯国となっており、モンゴルも含めた北東アジアの非核地帯は、この地域の平和の実現において重要な課題であるということが確認されました。

私たちは、会議終了後の翌日、モンゴルの大自然を堪能して帰ってきました。

◆トピックス◆

核兵器禁止条約の批准は一九か国に

二〇一七年七月七日に採択され、同年九月二〇日に調印・批准の受付が始まった核兵器禁止条約は、「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」に合わせて二〇一八年九月二六日に国連本部で行われた第二回調印式で、新たに七か国（アンティグア・バーブーダ、ベナン、ブルネイ、ギニアビサウ、ミャンマー、セーシェル、東ティモール）が調印、四か国（ガンビア、サモア、サンマリノ、ヴァヌアツ）が批准書を国連事務総長に寄託し、調印は六七か国、批准は一九か国になりました。翌二七日、新たに二か国（アンゴラ、セントルシア）が調印書を国連に寄託し、調印は六九か国になりました。

核兵器禁止条約は、五〇か国目の批准書が国連事務総長に寄託されてから九〇日後に発効します。

【出典】核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）のウェブサイトで条約の調印・批准状況が分かります。

講演要旨

原発ゼロ・自然エネルギー推進を

～基本法案に込めた思いについて～

前静岡県湖西市長　三上　元

原発ゼロ基本法案の意義を熱く語る三上元さん

さんの講演会は、テーマを「日本のこれから進むべき道」などの設定をすることもあり、保守系や原発推進派の人が、うっかり聴きに来ることも多い。中には、原発推進派だったが、小泉さんの講演を聴いて、反対派に変わることもあるという。

海外での原発建設・稼働

原発の新たな建設、稼働の問題では海外の例が参考になる。一九七八年、オーストリアでは原発ができたばかりのころに、政権が代わり国民投票。その結果、僅差で原発を稼働させないという判断に至った。その翌一九七九年、スリーマイルアイランド発電所事故が発生。その影響もあり、一九八五年には廃炉が決定した。事故の影響は大きく、アメリカでも事故以降、建設中のものを除き、新規の原発建設プロジェクトは立ち上がらなくなった。ここで、日本の場合、〝せっかく作ったのに使わないのは、もったいない〟と思いがち。オーストリアはそんなことお構いなしで原発を使わず廃炉にした。これをぜひ見習うべき。

九・一一テロ事件がきっかけ

ここで、三上氏が原発反対を始めたきっかけの話へ。それは二〇〇一年の九・一一同時多発テロだった。当時、三上氏は神戸で経営コンサルタントの仕事をしていたが、テレビで九・一一テロを見た際に衝撃を受けた。ハイジャックされた航空機四機のうち、二機はツインタワーへ。三機目はアメリカ国防総省本庁舎ペンタゴン（いわゆる、戦争仕掛け人の居城）。ここで、気になったのが四機目。空中爆発したので確実なことはわからないが、様々な証言、要素を組み合わせた結果、原発を狙ったと確信した。それをきっかけに、私は当時「週刊フナイFAX」の編集長兼主筆であったことから、五～六週にかけて、国防上の理由から原発をやめるべき（テロの標的とされる危険）という趣旨の連載を執筆した。

原発ゼロ基本法案を発表

原自連は一月に原発ゼロ基本法案を発表した。原発反対、これに加えて強調したのが、地方創生であり、ソーラーシェアリング。原自連としては、原発ゼロ基本法に「ソーラーシェアリングは、農家所得の向上とエネルギー自給の両方を担う画期的なアイディアとして、国策で進める」を盛り込むなど、ソーラーシェアリングの推進と農家所得の向上に着目。この提案を受けて、今年四月には農林水産省が基本的に了承する方針を示した。

【原発ゼロ基本法案の八項目】

①全部の原発を直ちに停止。
②新設・増設は今後、許可しない。建設途中の原発も工事をやめる。
③核廃棄物の中間貯蔵施設・最終処理場は国の責任で準備し、手続きを踏んで決定する。
④もんじゅ・六ヶ所村の核燃料サイクルの失敗を認め撤廃し、再処理工場は廃止する。
⑤原発の輸出はしない。
⑥自然エネルギーの比率向上の目標値として、二〇三〇年五〇％、二〇五〇年一〇〇％と定める。
⑦ソーラーシェアリングは、農家所得の向上とエネルギー自給の両方を担う画期的なアイディアとして、国策で進める。
⑧省エネ建物（高断熱）を工場、オフィス、住宅で推進し、LEDなどの省エネ器材を国策として進める。

原自連と〝小泉効果〟

原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（略称　原自連）への講師依頼は、小泉純一郎元首相への依頼が断トツ。ただ、依頼数が多く、週一回まで、一〇〇人以上集めること等を条件としている。日程など、条件に満たないときには、三上さん含めて他の講師で対応することも多いという。また、小泉

小泉元首相のエピソード

これまで講演など活動を続けた経験から、小泉氏曰く、「原発推進派は、原発の初歩的なことも答えられない。勉強不足。七年前の自分と同じで、電力会社の言われたことをそのまま信じている現状だ」とのこと。小泉氏は、首相をやめて、衆院議員を息子に譲り、自分の時間ができた。そこで、自分で選んで本を読むようになり、はじめて原発はおかしいと気づいた。そして、勉強した後には、産廃処理場について学ぶためにフィンランドのオンカロ（最終処理場）を視察した。通常、産業廃棄物は、事業を行う前に最終処理場を確保する。しかし、原発だけは例外で、廃棄場所を確定しないまま事業を始めている。これは日本にとどまらない。これについて、フィンランド現地で学び、改めて、地震列島の日本で安全な廃棄場所が確保できないことを確信した。そして、「トモダチ作戦」に関しては、アメリカに渡り謝罪。講演会などで、訴訟支援募金を一億円集める決意を固めて行動を起こす。ニトリのオーナーが一人で一億円寄付するなど、三億円集まった。

日本経済新聞の報道姿勢

日本経済新聞のスタンスの変化も特徴的。日本経済新聞は昨年一一月一九日付けでエネルギーコストについて、「七年前と比べ原発は一〇円→一五円、太陽光は一八円→五円へ」と報道。これ以降、原発問題について、日経新聞は事実を報道するようになったと感じる。原発は安い、という幻想が崩れたのをきっかけに、堂々と原発の疑問を投げかけるようになった。

ロイズ再保険組合と原発

イギリスのロイズ再保険組合では、海外の原発も保険が掛けられる。しかし、日本の原発だけは危険性が高すぎて受けていない。ドイツは、ロイズの試算を受けたところ、莫大な保険料が算出（危険性が高い）され、その結果が原発廃止へ舵を切る大きな理由となった。これに対して、「ドイツが原発をやめられるのは、フランスから電力輸入できるから」という主張もされているが、これは間違い。むしろ、ドイツは電力輸出超過状態にあり、脱原発による電力不足の懸念はあてはまらない。

活断層の有無の問題ではない

原発立地の危険性について、日本は志賀原発もそうだが、活断層かどうかで原発立地の安全性を議論している。しかし、今回、地震の影響を受けた北海道の火力発電所は断層がないところだった。もはや、断層の有無は問題ではないということが証明されたのである。加えて、原発は「七〇〇gal から一〇〇〇gal まで耐えられる」と言われているが、今回の北海道の地震は四〇〇〇gal。一〇〇〇gal 以上の大きな地震が来たら、原発は到底耐えられない。

原発の警備体制に疑問

原発の警備体制にも問題がある。ほとんどの国は軍隊が原発を警備している。しかし、日本は管轄省庁等の関係で警察が対応。某自衛隊の役人との話では、本来、自衛隊が出るレベルであり、頼まれれば喜んで警備にあたるが、管轄の問題から、紳士協定で自衛隊側が自重しているそうだ。

最後に、質疑応答では、個人から議員への働きかけ（これまでは支持してあげていたけど、原発推進を続けるなら支持しないと言う等）、首長を変えていく必要について触れ、幕を下ろした。

（非核・いしかわ編集部）

◎九月二九日、石川県教育会館ホールで開かれた原発をなくす石川県連絡会主催の講演会要旨です。

非核・平和のひろば

沖縄県知事選　勝利の余波

安倍政権の終わりの始まりへ

沖縄県知事選での玉城デニーさん勝利の余波が続いています。なにしろ安倍政権が全面支援し、基礎票で上回る相手候補に八万票余の大差をつけて圧勝したのですから。安倍首相はこう考えていたでしょう。国言いなりの県知事が当選すれば、埋め立て土砂投入を認めさせ辺野古新基地建設を既成事実化できる。政権の求心力を強め宿願の九条改憲へ弾みにしたい。

そのために取った手段は卑劣なものでした。本土から自民党の大物議員が入れ替わり応援演説に入り、水面下で企業・団体の票固めを徹底、選挙運動では最大争点の辺野古問題に一切言及せず経済振興のみ訴える。五〇〇〇人規模の公明党・創価学会員を総動員し期日前投票へ大掛かりな誘導作

戦を展開。いわゆる官邸・与党の「勝利の方程式」です。

九月二二日の「うまんちゅ大集会」で翁長樹子さんが「政府は権力のすべてを行使し愚弄するように沖縄の民意を押しつぶそうとする。簡単には勝てないが、簡単には負けない」と呼び掛けたことが感動を広げました。「明るい人柄がよく出ている」と、デニーさん笑顔全面の本紙号外も大好評。多くの人に届けられました。

「安倍政権の終わりの始まり」へ、沖縄県民の良識の勝利に応えたいと思います。

（「全国商工新聞」二〇一八年一〇月一五日号より転載）

非核石川の会リレーエッセー

沖縄をこれからも応援していく

村中香子

沖縄県知事選挙の結果は本当に良かった。本当の闘いはこれからだろう。辺野古新基地建設阻止、米軍基地など沖縄にも日本にもいらない。沖縄は観光客数でハワイを上回ったそうである。米軍基地がなくなればもっと沖縄の観光は栄えるだろう。微力ながら辺野古新基地建設阻止に今後も協力していきたい。

久々にすがすがしい気持ちになれた沖縄のことだけでなく、今の日本には気になることがたくさんある。原発・環境・食料問題などなど、悶々としたこの思いをどこにぶつけようか。テレビに向かって怒っても何も変わらない。一人の力ではなかなか難しいし、声をあげることすら勇気のいることである。

今、働いている石川民医連では自分の気持ちと一致した方針で組織の提起する行動に参加することができてきた。署名・集会・デモ等、周りの人達とは同じ思いで話せストレスを感じることがほとんどない。しかし、職場を離れるとやはり違う。一人の個人として自分の考えを発信したり行動することはできるだろうか？

『非核・いしかわ』九月二〇日号の五十嵐正博先生の「主張する権利を行使しよう」を読んで〝そうだよなー〟とつくづく思う。だから沖縄の選挙結果は希望である。これからも、応援していきたい。

平和を願うからこそ紙芝居を

安原昭二

余興で時々、ヤッシーの名で紙芝居をしています。私が小学校に勤めていたとき、同じ職場にいた野間成之さん（のまりん）から影響を受けたことがきっかけです。

演者は〝ヤッシー〟こと安原昭二さん

野間さんは日ごろから「読み聞かせも紙芝居も自分が楽しむことが一番。なにか本好きにさせようとか、いい子にさせようと思わないで」と素のままの子どもたちを大事にしつつ、目に余る管理教育に警告を発していました。また、私の幼少期に兄や従弟がよく集まり「怖い話」をしてドキドキしたり、わくわくした体験が土台にあったことも繋がっているようです。

戦時、紙芝居は戦意高揚の道具として用いられたと聞きます。子ども向けに作られた戦意発揚のための「国策紙芝居」で敵国の指導者や兵士を鬼や虫に描き、日本の正しさを知らせようとしたらしいのです。しかし、身を寄せ笑ったり泣いたりする紙芝居は庶民の文化です。

私の好きな紙芝居に『ねずみきょう』という話があります。ねずみの様子を見てデタラメのお経を唱えたお坊さんと、そのお経で泥棒を退治したお婆さんの愉快なお話で、似たような話が日本のあちこちにあるらしいのです。

悪いことには容赦はないけど、悪人を憎まない温かさとユーモラスは、昔から市井の暮らしの中にどっしりと存在した文化だったに違いありません。紙芝居による人のつながりは、人間を好きになり安寧な社会と戦争を憎む目を持たせてくれます。

ぎこちなく、もたつくばかりで一八番（オハコ）の演目もない私ですが、「インチキ手品」のオマケつきです。そんなヤッシー紙芝居でも呼んでくだされば、どこへでも参上いたします。

詩人会議かなざわ「独標」より

やまびこ

池田珠子

新緑の山に登ると
思いっきり叫んでみたくなる
「ヤッホー」
そして　わずかな後に
返って来る音を確かめる
『ヤッホー』
子供の頃　あれは
山の神様の声だと教わった記憶
誰もいないところで
心のもやもやを思い切り
大声で叫ぶことが出来たら
どんなにかスッキリするだろう

神聖な山の頂きに立ち
淀んだ気持ちを声に出してみる
腹の底から精一杯
「王様の耳はロバの耳いー」
周りにいた人たちも次々と
「王様の耳はロバの耳だぞぅおー」

その声は山と山
ビルとビルとの間を
何度も行き来し
わんわんと響き渡り
澄んだ陽射しを浴びて
雲雀のように空高く舞っている

《編集室より》

◎つい先日、四泊五日で「戦争を語り継ぐ特別企画〝日中合唱交流・ハルビン公演の旅〟」に参加した。日中合唱交流コンサートに出演して友好を深めることを軸に、「九・一八歴史博物館」「満州七三一部隊跡罪証陳列館」「安重根記念館（仮）」に立ち寄るなど、日本の大陸侵略を語る上で重要な施設を訪問した。この中では特に一五年戦争の契機となった柳条湖事件の現場に建つ「九・一八歴史博物館」の規模の大きさに驚いた。残念ながらハルビン駅構内の伊藤博文の暗殺現場は工事中だった。

さらに、関東軍に見棄てられた満蒙開拓団の犠牲者は県内でも多数おられるが、その類似の墓にあたる中国唯一の日本人公墓（方正地区日本人公墓）にも墓参することが出来た。これは周恩来首相によって建立が許可され、紅衛兵によって壊されようとしたが、黒竜江省政府によって守られたらしい。

日中両国で屈折したナショナリズムが台頭する昨今、民族の憎悪を乗り越えて建てられ、守られてきたこの公墓は、これからの日中関係のみならず、今後の世界のあり様に示唆を与える存在であろう。

私は以前から、生きているうちに「ハルビン」「南京」「アウシュビッツ」に行きたいと願っていたが、これで前二つは実現した。残る一つはここ数年のうちに実現させたい。（中）

◎　九月一八日から二〇日まで、文在寅大統領と金正恩国務委員長は平壌で三回目の会談を行った。

今回の首脳会談の課題は朝鮮半島の非核化と南北関係の改善、軍事的緊張・戦争の危機の解消とされていた。

南北両首脳は「平壌共同宣言」と付属合意書「軍事分野履行合意書」に署名し採択をした。

米国の相応の措置を踏まえ、寧辺（ニョンビョン）核施設の永久廃棄のような措置を続けて行う用意があるなど、非核化の認識を共有し具体的な方策で合意したことの意義は大きい。

非武装地帯をはじめとする対峙地域の軍事的敵対関係の収束を、朝鮮半島全域での危険の除去と根本的な敵対関係の解消につなげていくことでも一致している。

共同会見で文大統領は「南北は半島の全地域で戦争を起こさせるあらゆる脅威をなくすことで合意した」「半島の完全な非核化は遠くない」と述べ、金委員長も「半島を核の脅威がない平和の地にするために積極的に努力する確約をした」と明らかにしている。

半島の非核化と軍事的緊張の解消を実行し着実に進むことを期待したい。南北、米朝に比べ日朝関係が大きく遅れていることが残念。「日朝平壌宣言」に基づいた誠実な対話姿勢を安倍政権に望みたい。（平）

◎本紙一、二面に掲載した「被爆ピアノコンサート」には一一〇通の参加者アンケートが寄せられました。おもな感想を紹介します。（か）

・被爆ピアノを中心にして、広島、福島、平和への願いが朗読、音楽、ピアノ、ハープ、歌声を通して、心に響き本当に心動かされる、すてきなコンサートでした。

・広島出身の方の朗読「しづかに歩いてつかあさい」は本当にずーんと伝わってきました。

・プログラム全て良かったです。「広島　愛の川」のソロがとてもすてきでした。ハープも「ヒロシマの有る国で」も良かった。

・「平和の子ら」、感動を覚える歌でした。平和のバトンをたくさんの人たちへ（子供たちに）。

・これほど多くの人が同じ気持ちでコンサートに集まられたことに驚き、また感動しました。

シリーズ 石川の地域点描 26

フォトグラファー　中西　優

秋も次第に深まり紅葉や秋の花が見られる季節となりました。秋は天候が安定することや食べ物が美味しい時季ということで、各種イベントも頻繁に行われています。

ただ、今年は続いた大雨や台風の影響からか花の開花や紅葉の色づきが例年より少しずれているようです。こちらの大倉岳高原スキー場も例年キバナコスモスが見ごろを迎える九月下旬に「コスモスまつり」が行われるのですが、開花の遅れでイベント当日は花があまり見られなかったそうです。今後も台風や大雨の影響が出ないことを祈りたいものです。

見ごろを迎えたキバナコスモス
（小松市・大倉岳高原スキー場）

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　中山清子

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	場　所
10	25	木	12:30	国連軍縮週間・ヒバクシャ国際署名行動	金沢市武蔵町・Mza前
	30	火	18:30	国民健康保険財政と都道府県単位化　武田公子さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研究室
	31	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
11	2	金	18:50	平和憲法公布72周年記念石川県民集会　講演・太田昌克さん 朝鮮半島の非核化と平和への道筋ー日米核同盟と揺れる憲法	金沢市尾山町・石川県文教会館ホール
	4	日	14:00	日本被団協東海・北陸ブロック相談事業講習会／講演・岩佐幹三さん、藤森俊希さん	加賀市山代温泉・葉渡莉
	5	月	9:00	日本被団協東海・北陸ブロック相談事業講習会／講演・原玲子さん、木戸季市さん	加賀市山代温泉・葉渡莉
	4(日)～11(日)			金沢市長選挙／4日告示、11日投票	
	9	金	8:00	じゃり道工房・第2能登丸遭難事件を訪ねる-能登半島「平和の旅」	七尾市内各地　問い合わせ先 090－9766－0287
	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	11	日	9:30	食物アレルギー講演会／食物アレルギーのみかた　武石大輔さん	金沢市堀川新町・ホテル金沢
	14	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	17	土	14:00	「おだやかな革命」佐藤彌右衛門さんトーク＆映画上映	金沢市香林坊・シネモンド
	23	金・休	8:00	朝鮮の人たちがかかわった加賀市の地下壕めぐり	問い合わせ　076－264－3547　川本まで
	25	日	14:00	原発問題住民運動石川県連絡センター結成30周年記念のつどい／記念講演・立石雅昭さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	28	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
12	8	土	14:00	不戦の集い2018年 「板門店宣言」など朗読と話し合い	金沢市武蔵町・ITプラザ武蔵第2研修室
	9	日	14:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」上映会／2回目は17:00～	金沢市安江町・金沢別院真宗会館ホール
	15	土	14:00	いしかわ自治体問題研究所総会／記念講演　中山徹さん	金沢市香林坊・石川県教育会館2階会議室
	23	日	14:00	医療・福祉問題研究会シンポジウム	金沢市堀川新町・ホテル金沢

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デ―12:00

＊会報「非核・いしかわ」のサポート会員を募集中。年間購読料は1，500円です。ご紹介をお願いします。